

議長（黒沢義久君） 次，8番成井小太郎君の発言を許します。

〔8番 成井小太郎君登壇〕

8番（成井小太郎君） 8番成井小太郎でございます。議長のお許しが出ましたので，通告に従い一般質問をいたします。

1番，旧金砂小学校を利用した地域活性化と振興対策について，ご質問いたします。

少子化に伴う児童数の減少や市町村合併などによる学校統廃合などによって，廃校となる学校施設が増加しており，社会教育施設や福祉施設，宿泊施設などにさまざまな利活用がなされています。当市におきましても児童数の減少により，金砂小学校と金郷小学校が統合になり，廃校となった旧金砂小学校の利活用が検討されてきたことと思います。地区住民の学び舎であった小学校は親しみのある身近な施設で地区のシンボルでもあり，住民にとって生活の拠点であることに変わりはないものと思います。

平成22年度の施政方針の中に旧金砂小学校の利活用について，地域の活性化と交流人口の増加を図るため，都市農村交流の拠点として施設改修，整備を進めていくとあり，また，改修工事委託料が計上されております。今まで，内部のプロジェクトで検討を重ねてきたことと思いますが，どのような改修整備をして，どのように地域振興と結びつけていくのか，お伺いいたします。

また，旧金砂小学校は国の補助金等を財源として建設されたものでありますが，建てかえられて20年とまだ新しく，このような使用目的の変更に対して問題はないのかどうかお伺いいたします。

次に，先ほど同僚議員の質問がありまして，詳しい説明をいただいたわけですが，また私のほうからも質問ということで重複しますが，質問させていただきたいというふうに思います。それでは2番の子宮頸がん予防ワクチンの無料接種補助についてです。

がんを予防する初めてのワクチンで子宮の入り口にできる子宮頸がんのワクチンが今年の12月に日本でも発売されました。現在，日本では毎年1万人以上が子宮頸がんになり，そのうち約3,500人が死亡しています。また，死亡とまでは至らなくても，子宮を摘出したり，切除手術により重い後遺症が残ったり，子どもが産めない体になることもあります。日本においては，がん検診の受診率が低いこともあり，妊娠して初めてがんに気づく人も少なくありません。

子宮頸がんの99％はヒトパピローマウイルスHPVの感染が原因になります。ウイルスが原因なので，ワクチンが有効な予防手段です。また，ワクチンの費用は1回約1万5,000円を3回接種しなくてはならないので，自費で受ける場合は約4万円から5万円ほどかかります。現在，HPVワクチンは世界100カ国以上の国で承認され，イギリス，イタリア，アメリカ，カナダなど約30カ国で公費負担により，12歳前後の女子に対して接種が行われています。日本では発売されたものの，保険適用もなく公費負担もないため，ワクチン接種率は多くても5％と予想されています。現在，日本の各自治体はこの状況を踏まえ，独自で公費補助の検討を決定しております。国の対応は決定まで時間がかかるのは現状です。常陸太田市の対応についてお伺いいたします。

以上1回目の質問を終わります。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。政策企画部長。

〔政策企画部長 江幡治君登壇〕

政策企画部長（江幡治君） 旧金砂小学校を利用した地域活性化と振興対策についてのご質問にお答えをいたします。

施設整備の基本的な考え方でございますが、廃校となる前の小学校と同様にこれからも地域の核となり、地域の活性化を目的とした施設として整備してまいりたいと考えております。施設の機能でございますが、地域コミュニティの拠点、都市農村交流の拠点、そして常陸秋そばの発祥の地でありますことから、これらを含めた地域の情報の受発信の拠点、またオーナー制やそばうち、豆腐作り、木工などの各種体験の拠点としての機能、さらに合宿や研修、新規就農者等にも対応できるよう、宿泊機能を持った施設として整備してまいりたいと考えております。詳細につきましては、引き続き金砂地区ふるさと協議会などの地域の皆様のご意見をお聞きしながら、平成22年度に基本設計、実施設計を、平成23年度に改修工事を行ってまいります。なお、校舎には耐震性もありますことから、整備する範囲は必要最小限にとどめてまいりたいと考えております。

整備後の施設の管理運営につきましては、市が行ってまいる考えでありますが、地域コミュニティの拠点として、また金砂地区ふるさと協議会などのご協力をいただきながら、さまざまな体験交流事業等の拠点施設として利活用をし、市内外からの交流人口を増加させることにより、地域の活性化を図ってまいりたいと考えております。

なお、国庫補助金につきましては、国は地方自治体が国の補助金を活用して建設した施設について完成後10年経過を条件に当初の利用目的と異なる施設への転用等については、返還を求めないとの方針を示しております。これに基づきまして、公立学校施設整備に係る国庫補助金につきましても、公共用、公用に供する施設等への転用する場合には返納を要さないこととされているところでございます。

議長（黒沢義久君） 保健福祉部長。

〔保健福祉部長 綿引優君登壇〕

保健福祉部長（綿引優君） 子宮頸がん予防ワクチンの無料接種補助についてのご質問にお答えいたします。当市のワクチン接種に対する費用助成についての考え方でございますが、子宮頸がんの予防はまず定期的な検診の受診による早期発見と予防、そして思春期における自分の体を大切にする思春期教育としての啓蒙等を進めることが大切であると考えておりますので、まずこの2つをさらに推進してまいります。また、日本産婦人科学会や研究者などは子宮頸がん予防には10代の接種が有効との結果から、地方自治体の個別の対応ではなく、国に対して接種費用の公費負担化や定期接種化を要望しておりますので、当市といたしましても県を通じて制度化を要望してまいります。その上で、ワクチン接種費用の助成につきましては他市の状況も踏まえ、研究課題とさせていただきます。

以上でございます。

議長（黒沢義久君） 8番成井小太郎君。

〔 8 番 成井小太郎君登壇 〕

8 番（成井小太郎君） 答弁ありがとうございました。

2 回目ということなのですが、先ほども同僚議員の質問で答えを聞いているわけなのですが、最初に旧金砂小学校の利活用なのですが、金砂地区はご存じのように少子高齢化が著しい地区であります。耕作放棄地の対策とかいろいろな問題もある中で、旧小学校の利活用ですが、金砂地区は極めておいしいそばのとれる地区でございます。またすばらしい四季の自然環境、ほかにはない特性を持っていると私は思っております。ここを地域振興、交流人口の増加をぜひともこれから図っていただきたいとお願い申し上げます。

2 番目の子宮頸がんワクチン、私からもさらにもお願いしたいという、一言になってしまうかと思いますが、全額補助が無理というか、できないのであれば、一部助成ということもあると思います。一部助成をするということによって、このワクチンを知らない人への啓蒙にもなるのではないかというふうに思います。また、小学校、中学校において特に母親へのワクチン接種への認知、認知度が相当低いのは私も感じております。母親への認知が特に必要ではないか感じておるわけでございます。あと、このワクチン接種ということは、少子化対策にも直接つながることになります。ぜひとも、早急な対応をお願いしたい。

先日たまたま二、三日テレビ等で随分子宮頸がんについての放送がなされて、随分認知も高まったのではないかと感じておりますが、県内でいち早い決断を出すということもまた常陸太田市のPRに、こういうのでPRというのもちょっとあれなんです、早い対応がPRになっても常陸太田市の活性化につながるのではないかと思います。いち早い対応をお願いいたしまして、質問を終わります。

ありがとうございました。